

【平成17年度専修学校を活用した若者の自立・挑戦支援事業】

事業名	選抜者によるJavaプログラミング短期速習カリキュラムの研究開発		
学校法人名	学校法人 朝日学園		
学校名	明生情報ビジネス専門学校		
代表者	理事長 岡田 充	担当者・連絡先	楠渕 喜弘(047-346-7475)

<事業の概要>

フリーターと呼ばれる若年層未就職者の中でプログラマ適性を持った初心者に対し、短期間にてJavaプログラマを養成するカリキュラムを作成いたしました。雇用に直結するスキルを身につけるためにIT業界で需要の高いJavaの実践的開発スキルを身につけ、企業サイドが中途採用等において採用できるレベルの技術者を育成することを目標としました。

<成 果>

①適性検査の結果

本研究は、適性検査による選抜を行い、その対象者の適性による効果の違いを検証しています。具体的には、本研究講座の受講希望者18名に本校使用のプログラマ適性検査にて標準値以上の結果を得られた方8名を合格とし、実証講座を受講していただきました。

本講座受講者の内4名を適性能力上位者、4名を適性能力中位者と位置づけ、結果を検証いたしました。（下表参照）

SJC-P 模試		for 文	識別子	static	参照	合計点
満点		30.0	20.0	30.0	20.0	100.0
適性 上位者	講座開始2ヵ月後	8.8	0.9	12.0	5.0	26.7
	講座終了時	26.5	17.8	22.0	12.8	79.0
	伸び率					296%
適性 中位者	講座開始2ヵ月後	16.3	1.3	1.5	5.0	24.0
	講座終了時	15.0	3.0	9.0	5.5	32.5
	伸び率					135%
上位者と 中位者の 差	講座開始2ヵ月後	1.1 倍				
	講座終了時	2.4 倍				
	伸び率	2.2 倍				

講座開始2ヵ月後に実施したSJC-P（サン・マイクロシステムズ社）模擬テストでは適性上位者と中位者の間では大きな差異は見られません。しかし、講座終了時に実施した模擬テストの結果を比較すると、その伸び率には倍以上の差異が認められます。

以上の結果より、本研究のカリキュラムが適性上位者に適した速習カリキュラムであることが結論づけられます。

②カリキュラムの総評

<ITカリキュラム>

実証講座を行い、適性能力上位者と講師の意見を真摯に受け止めることにより、机上で作成されたカリキュラムと教材を、より実効性の高いものへと成長させることができました。

今回の研究でのカリキュラム変更の方向性は「創意工夫を生む応用力の強化」、「学習項目の定着度向上」です。この2点は、学習意欲の継続とIT分野への参加モチベーションを維持するだけでなく、上級技術者になる人材を養成するためにも必要であると思われま

す。本研究の対象者は適性能力を持つフリーターであり、スキルの習得だけではなく、自己啓発意欲の向上と応用能力の養成も重要なテーマであると認識しております。特に応用能力の養成では、より高度な課題を完成させることにより、高揚感を得ることができ

ます。初心者向け講座ではありますが、基礎技術の習得だけではなく、業界で一人前に活躍できる自信を身につける上でも講座受講時に高揚感の得られる高度な学習が必要であると考えられます。

<就職支援カリキュラム>

本研究の対象者のうち、7名がプログラマとして既に就業している、または内定しております。また他の1名も、本研究にてプログラムへの興味をさらに向上させ、来年度より公立情報系専門学校へ進学をいたします。

プログラマとして就業する方の中には、ニートと呼ばれる若者が1名含まれておりました。本研究のような就職支援の必要性が、ますます今後ニート対策の重要なファクターになっていくと思われま